高齢者の絵本の読み聞かせボランティア活動と認知機能

(5) 昔話の語りに見られる介入効果

○大塚紫乃¹・齋藤有²・鈴木宏幸³・佐久間尚子³

(¹江戸川大学・²ルーテル学院大学・³東京都健康長寿医療センター研究所)

キーワード：昔話の語り，高齢者，認知的介入

Volunteer activities of reading picture books and cognitive function in elderly: (5) Effects of intervention on story telling

Shino OTSUKA¹, Yu SAITO², Hiroyuki SUZUKI³, and Naoko SAKUMA³

(¹Edogawa Univ, ²Japan Lutheran College & Seminary, ³Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology)

Key Words: story telling, older adults, cognitive intervention

目 的

“REPRINTS”研究¹の介入効果が，追跡7年目に導入した「桃太郎の語り」課題に見られた(齋藤ら2013, 菊地ら2013)²。読み聞かせボランティアを継続している介入群においては，桃太郎の読み聞かせ経験の有無に関わらず，語りの成績が良いのに対し，健診のみ参加している対照群においては，知識が同等にあっても語りの成績が低いという結果であった。

本研究では，『桃太郎』以外の物語でも結果は再現されるか『浦島太郎』の物語を用いて検討する。昔話の語りと再認によって測られる内容の知識，そして介入効果がどのように関連するのか明らかにすることを目的とする。

方 法

対象 REPRINTS への継続参加者(介入群)と健診のみの参加者(対照群)を対象とする。基本として7年目に「桃太郎の語り」課題，8年目に「浦島太郎の語り」課題，9年目に「再認」課題を行った。途中抜けた場合は，未実施の課題を10年目に行った。桃太郎の語りは112名，浦島太郎の語りは101名，再認課題は63名が行った。全課題を行った者は52名であった(表1)。今回は52名分のデータを用いて分析を行った。

表1 介入群と対照群の属性

	桃太郎	浦島太郎	再認	全課題実施		
				介入群	対照群	計
N	112	101	63	24	28	52
平均年齢 ¹	75.1	76.9	76.3	74.8	75.5	75.2
平均教育年数	13.3	13.5	13.2	12.6	13.3	13.0

¹ 全課題実施の平均年齢は桃太郎の語り課題を行った時点の年齢である

課題 昔話の語り：題名(e.g., 浦島太郎)が書かれたカードを見せ，「このお話は小学校前のお子さんに聞かせるようにお話してください」と教示した。最長5分で語りを終了した。

再認：「桃太郎」と「浦島太郎」のお話別，物語のキー情報6項目(浦島太郎を例とすると亀など)周辺情報4項目(子どもなど)の正答10項目と，物語から連想されやすいエラー5項目(天女など)連想されにくい無関連のエラー5項目(白など)の誤答10項目の計20項目をA4の紙にランダムに配置し提示した。お話に関連すると思う10項目に丸をつけて選択させた。

得点化 昔話の語り：物語を構成する10場面を抽出し，50個の基本情報を決定した。意味レベルで基本情報と一致する語が語りに含まれていた場合に1点を与えた。ただし主述の関係の正しさを考慮し採点した。2名で採点し，不一致は協議して得点を決めた。

再認：キー項目，周辺項目，連想エラー項目，無関連エラー項目それぞれの選択数を集計した。正答であるキー項目と周辺項目の選択数を再認得点とした。

結 果

1. 物語を超えて結果が再現されるか

表2に課題の平均得点を示す。語り得点について，物語2(桃太郎・浦島太郎)×群2(介入・対照)の反復分散分析を行ったところ，物語の主効果($F(1,50)=36.55, p<.001$)と群の主効果($F(1,50)=6.90, p<.05$)が見られた。語り課題は『桃太郎』の方が『浦島太郎』よりも容易であった。また，介入群の方が対照群より

も高い成績であった。

再認得点についても，物語2(桃太郎・浦島太郎)×群2(介入・対照)の反復分散分析を行った。その結果，物語の主効果($F(1,50)=11.18, p<.001$)と群の主効果($F(1,50)=6.05, p<.05$)が見られた。再認課題は，『浦島太郎』の方が『桃太郎』よりも容易であった。この点は語り課題とは異なっていた。群間差については語り課題と同様に介入群の方が対照群よりも高い成績であった。

表2 介入群と対照群の平均課題得点(SD)

	介入群	対照群	計	介入群	対照群	計
桃太郎	41.3 (8.5)	33.4 (11.2)	37.0 (10.7)	8.8 (0.8)	8.2 (1.2)	8.5 (1.1)
浦島太郎	32.0 (12.1)	24.8 (13.4)	28.1 (13.2)	9.5 (0.7)	8.8 (1.2)	9.1 (1.0)

2. 昔話の語りと再認の成績の関連

語り得点と再認得点の相関分析を行ったところ，介入群($r=.59, p<.01$)と対照群($r=.60, p<.01$)ともに，桃太郎と浦島太郎の語り得点の相関が見られた。また，語り得点と再認得点の相関は，介入群が天井効果を示し(桃太郎： $r=.36, n.s.$; 浦島太郎： $r=.01, n.s.$)，対照群においてのみ有意だった(桃太郎： $r=.44, p<.01$; 浦島太郎： $r=.44, p<.01$)。語りと再認の得点の散布を図1に示す。

図1 物語ごとの語り得点と再認得点の散布図

考 察

本研究より，絵本の読み聞かせボランティアへの参加を通して昔話の語りに良い影響を与えていることが示唆された。今回の語り得点を比較すると，桃太郎と浦島太郎の語りに難易度の違いが見られたが，一貫して介入群の方が情報を多く語っていた。ただし，再認の成績も介入群の方が高かった。

語りと再認との関連性に関しては，介入群において再認課題の天井効果があったため，再認の項目を見直し，さらなる検討が必要である。散布図を見ると，とくに対照群では再認得点が高くて語り得点が高い例も多かった。したがって，群による語りの差は，知識のみによって説明されるわけではなく，読み聞かせの習得による語りの技術向上が要因となっていた可能性もある。この点は今後，さらに明らかにする必要がある。

引用文献

1. 藤原佳典, 他 (2006) 都市部高齢者による世代間交流型ヘルスプロモーションプログラム：“REPRINTS”の1年間の歩みと短期的効果。日本公衆衛生学会誌, 53, 702-714. / 2. 日本心理学会第77回大会にてポスター発表。
- 謝辞 本研究は厚労科研H16-長寿-031(代表：新開省二), H19-三井住友海上福祉財団(代表：藤原佳典), 文科研H22-基盤C(代表：佐久間尚子)の研究助成を受けた。共同研究者の皆様へ感謝申し上げます。